

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.10 2008.6.25

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006



福まち通信

高齢者見守り活動体験発表会



福まち推進

委員会では、地区内の高齢者見守り活動を支えてくださっている方々から、その活動の実態をお聴きしようと、さる5月27日(火)福まち事務所において座談会を開きました。

出席者のみなさん

及川 忠さん 武田芳子さん 斉藤すみ糸さん
佐藤恵津子さん 菱田悦子さん 千葉真智子さん
細野 明敏さん(司会)
中田まち事務所長 武山社協職員(オブザーバー)
枝元福まち通信編集委員



(司会) 日頃見守り活動でお世話になっている方々にお集まりいただきました。色々お話をお聴きしたいと思っています。



○ 去年から向かいのクリーニング店の奥さんと協力して4人の方の見守りをしています。

○ 美容院をしています。近くのアパートの人たちへの声かけをしています。

○ 私たちの町内では役員や近くの人たちの協力で見守り活動を続けています。現在16人おられますが、私はそのうち4人の方の見守りをしています。2ヶ月分の見守りチェック用紙を作って活動状況を記録しています。

(司会) 訪問の状況はどうか。

○ 気難しい方もいて、なかなか戸をあけてくれない人や、通院が多くなかなか会えない場合もあります。

○ 耳が遠くてドアホンを鳴らしても出てこられない

人もいます。

○ 女の方で男の人の訪問を嫌がる人がいます。

○ その逆で男の方は女性の訪問を待っているのではないですか。(笑い)

○ 振り込め詐欺などの影響もあって、他人の訪問を警戒している人もいるのではないのでしょうか。

○ 高齢者はとかく孤立しがちですが、その人の気のもち方一つで、若々しく暮らしている人も多く見られます。こういう人たちばかりだと、何の心配もないのですが…。

(司会) 民生委員さんの立場ではどうでしょう。

○ 区役所からの老人台帳で受持ち地区内の高齢者の状況の把握をしていますが、担当件数が多くなかなか大変です。私は、高齢者の見守りは民生委員だけの仕事ではなく、近くに住んでいる人たちが普段



のお付き合いの中で行うのが一番だと思っています。

○ 最近はマンションが増えて、一般住宅が減っています。そのために昔からの付き合いが薄くなりがちです。

○ 「元気ですか」と声をかけると「元気でない…、あそこがいたい、ここが困っている…」と話が長くなりますので、最近は「お変わりありませんか」と軽い言葉で声かけをしています。(笑い)



○ 訪問を嫌がる人もいる代わりに、待っている人もいますので、サボるわけにはいきません。(笑い)

(司会) ご商売をされている人の場合はどうですか。



○ 私は美容院をしています、近くにはアパートが多く、一人暮らしのお年寄りが多く住んでおられます。お客さんとしての付き合いも多いのです。その中で話し合いの機会が多く持たすし、いろいろ相談を受けることも多いのです。入院するのだが、どうしたらいいかとか、怪我をした、救急車を呼んでほしいなどと、いろいろな場合があります。

○ デイサービスに出かけるときは「行ってらっしゃい」と、声をかけています。民生委員さんのようにはいきませんが、気楽に声を掛け合うことができる立場ですので、できることも多いと思います。

○ 何年か前に、亡くなられてから三日ぐらい判らなかつたおばあさんがいました。時々部屋に行って声をかけていたのですが、耳が遠くて人との会話が難しい人でした。

(司会) 見守り活動を広げていくには、どんな問題があるのでしょうか。

○ 前にも言ったように、見守り活動は特別なことをするという意識ではなく、肩の力を抜いて、ご近所同士声を掛け合うことから始めればうまくいくのではないですか。

○ 年齢に関係なく元気な人には、お節介と思われないう、ごく自然に気配りする程度で十分だと思います。

○ マンションの場合はセキュリティを重視する余り

に、住民同士のお付き合いが疎遠になっていると聞いています。

○ 信頼関係を築けないために、訪問を嫌がる人には電話で安否を確認するとか、電気がついているか、新聞が溜まっていないかなどといった程度の心遣いをすればいいのでは…。

○ 高齢者が人とお喋りをしなければ早くボケてしまいます。同じ年代の人がいつでも気軽に集まっておしゃべりをする場所があるといいのですが。私の店はその意味でいろんな人が集まってくるサロンなのです。でも、相槌を打つタイミングや話の種類に大変気を使います。

○ 昔には「えんがわ文化」があり、近所の人が集まって日向ぼっこをしながら話し合ったものです。

○ 菊水にも、昔は二軒長屋が沢山あって、夕飯のおかずを交換し合うなどの、人情こまやかな付き合いがあったのですが、そんな関係はもう戻ってこないのでしょうか。

(司会) いろいろな地域でこの見守り活動が行われていますが、どんなやり方がいいのでしょうか。

(社協武山氏) 社協としては、見守り活動はこのようにしてはどうかというモデルをお話することはできます。しかし、それぞれの地域にはそれぞれの特性がありますし、また、義務化した制度として行うものでもありませんので、その地域ごとにやりやすい方法で行うことが、最善の方法だと思います。

○ 地域の皆さんが、一人の孤独死も見逃さないという気持ちになれば、おのずから道は見えてくるはずなのです。



(司会) 町内会に入っていない方や、生活保護を受けている方たちの見守りはどうしているのですか。

○ 最近町内会の会員にならない方が増えています。うちの町内では、見守り活動は未加入者も差別せずに行っていますが、いろいろな反対意見があるのも

事実です。

- 生活保護を受けている人に、町内会に加入してくださいとは言いつらいので、積極的に加入を勧めていません。
 - 敬老祝金の贈呈や、町内会主催の旅行会の参加については、未加入者の人たちは対象にしていません。
- (参考意見)** インフラ整備が進み、ライフラインも安全に整えられている都市では、町内会活動の姿が見えづらくなっています。そのために、任意加入の町内会に加入しないという人が増えていることは問題です。住民生活の安心・安全はいつも忘れずに整備しておく必要があります、そのための町内会活動も絶えず続けていかねばなりません。
- 生活保護を受けている人の問題ですが、国民の権利として最低生活の保障は憲法で認められています。その最低生活の範囲には、地域ですべての人たちと一緒に生活することのできる生活水準が保障されているのです。当然町内会に加入し会費を負担することを想定した最低生活費が見込まれているとあって差し支えありません。

従って、保護を受けなければ生活できない事情に同情するとしても、その結果、一般の人たちと同じ町内会会員としての利益を享受することを拒否するという矛盾を生み出してはいけません。

ある町内会では、生活保護を受けている方たちについては、一般会員の半額の会費を徴収するという方法でこの問題を解決しているようです。

前出の問題と含め、積極的加入促進が望まれます。

- (司会)** 今年の福まち活動の事業内容として、福まち事務所の無料開放をあげています。高齢者の方々が気軽に集まっていろいろな活動をしていただきたいと思っています。



(社協武山氏) 社協としても、以前から「ふれあい・いきいきサロン」を地域の中に作ってもらい、仲間作りをすることのお手伝いをしています。若干の活動費の助成もしています。

現在白石地区には21ヶ所の「ふれあい・いきいきサロン」があり活発に活動

を続けています。菊水地区にはまだつくられていませんが、高齢者や障害者、それに子育てをしているお母さんたちの活動の場として設置されるようお勧めしたいと思います。

福まち事務所
菊水6条4丁目3-10
東町福祉会館内



- (司会)** 今日は皆様お忙しいところお集まり頂き、貴重なご意見をお聞かせいただきました。これからも菊水地区の福祉の向上のためにご尽力くださいますようお願いし、お礼の言葉とします。

(参考)

ふれあい・いきいきサロン設置状況

地域名	設置数	地域名	設置数
白石	5	北白石	1
東札幌	3	北東白石	11
菊水	0	白石東	1
東白石	0	菊の里	0

豊平川ウォーク

地域住民の健康増進と環境美化活動として「豊平川を歩いてみませんか」というイベントが6月4日の水曜日に行われました。この行事は今年で4年目になりますが、菊水地区健康づくり運動実践会(竹内会長)と菊水町内会連絡協議会(真鍋会長)の主催で行われています。



午前10時半水穂大橋の下に約85名の会員が集まり、竹内会長の挨拶と、いつもの山田さんの注意事項の説明のあと、それぞれゴミ袋を手にして出発しました。参加者は仲間ごとに別れ、河川敷一杯に広がってゆっくと歩き出します。



晴天のもと、河川敷の緑がまぶしく広がります。川の水は川幅一杯にどどどと流れ、爽やかな風は頬に優しく触れていき

ます。

豊平橋を過ぎる頃には、先頭と最後尾との距離は二百メートルほどに開いています。見た目には綺麗な河川敷ですが、みんなのゴミ袋は次第にふくらんでいきます。



七条橋を過ぎ九条橋付近に差しかかると、対岸には巨大なマンション群がそびえ立ち、私達を見下ろしています。



九条橋からゴールの幌平橋まではこのコース最大の距離になります。

歩を進めると、行く手に「よさこいソーラン」の踊りの練習をしている団体が見えてきます。北海学園大学の生徒が本番に備えて汗を流しているのです。そんな若者たちからエ



ネルギーを分けてもらいながら歩き続けると、次第にゴールの幌平橋の姿が大きく迫ってきます。もうここまで来るとみんなのゴミ袋はだいぶ大きく膨らんでいます。



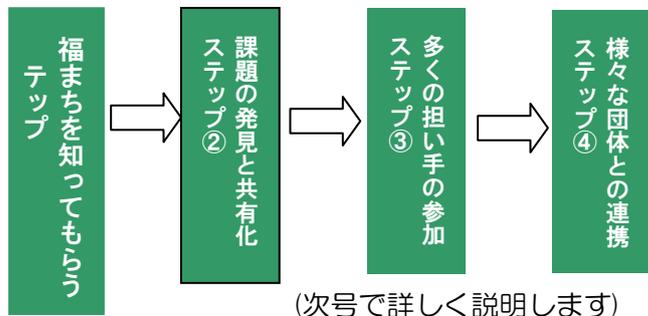
ゴールにたどり着いて橋の陰になったところで、さわやかな汗をぬぐう参加者の数が次第に増えていきます。最後の人たちが到着するのを、先頭の人たちは15分以上待ったことでしょう。ゴミ袋を集めてそれぞれ流れ解散しました。

丸く輪になってお弁当を広げる人たちや、三々五々家路につく人たち。みんな来年の再会を胸に解散しました。

(枝元編集委員)



ご近所付き合いを通じた支えあい活動が福祉のまち推進事業(福まち)です。市役所では今年「福まちステップアップヒント集」を出して、住民活動の支援を図りました。



編集後記

今回の福まち通信は、見守り活動体験発表特集になりました。少し字が多いのですが読んで下さいますか。読んでくださいね。(枝元編集委員)